

学校関係者評価委員会報告書

学校法人 国際学園 横浜国際福祉専門学校
校長 坂本 翔子

横浜国際福祉専門学校は、平成26年度自己点検評価結果を踏まえ、学校関係者評価委員会を開催いたしましたので下記の通り報告いたします。

1. 開催日時 平成27年10月15日（木） 19:00～19:50
2. 出席委員

豊田 宗裕	聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 准教授
坂本 翔子	横浜国際福祉専門学校 校長
伊東 一郎	横浜国際福祉専門学校 副校長
佐々木 卓	横浜国際福祉専門学校 事務長

3. 議事報告

I. 前回（平成26年10月1日）の本委員の提言について（報告）

① 卒業生との関係づくり

フェイスブックを開始したことにより卒業生とつながることができはじめてきている。フェイスブックをさらに活用し、関係づくりを強化していきたい。

② EPA 介護福祉士と学生、地域の方々との交流について

学校祭（平成26年11月15日）にて EPA 介護福祉士合格者によるインドネシア料理を提供するブースを設置。大変好評で、EPA 事業について理解を深めていただけたと感じた。

II. 平成26年度自己点検について

◎項目ごとの学校関係者評価・意見

①教育理念・目標

- ・外国籍の方を受け入れる態勢の整備ができたことは高く評価できる。更に入学後の支援（日本語教育・学習・生活等）について整備する必要がある。
- ・教育理念の周知方法として、教室内に掲示、フェイスブックの活用等の工夫を考えてほしい。

②学校運営

- ・ニーズの把握方法を検討する必要がある。この委員会でも更に情報を提供していきたい。

③教育活動

- ・教育に対する姿勢は高く評価できる。このまま継続をしてほしい。
- ・特長のある学校としてカリキュラムの内容も重要である。魅力あるカリキュラム作りをしてほしい。

④ 学修成果

- ・就職率が高いのは、徹底した個別指導の成果だと思う。大変素晴らしいことである。
- ・残念ながら、留年生がでている。留年生に対する指導を今後共に卒業に向けて実施してほしい。
- ・他校でも基礎学力不振の学生に対する指導が課題となっているようだ。横浜国際福祉専門学校でも放課後を使った個別指導、自宅学習などの対策が必要である。早急に取り組んでほしい。

⑤ 学生支援

- ・就職指導室があり、つねに最新の情報が掲載されている。また、各関係機関のパンフレット等も手に取って見られる状況は、大変評価できる。
- ・社会人の出願が年々減少しているようであるが、社会人の方が学びやすい、入学しやすい環境づくりが必要かと思う。

⑥教育環境

- ・予算内で老朽化した物品の購入リストを作成し、環境整備に努めてもらいたい。

⑦学生の受け入れ募集

- ・今後も適正な広報活動をおこなってほしい。
- ・年々募集状況が厳しくなっている。特に社会人の方の入学の減少が見られる。SNS を活用し、学校の様子や学生の活動等を発信してみてもどうか。広報活動の強化に努めてほしい。

⑧ 財務

- ・設置学科の定数確保は重要な問題である。広報活動の強化がやはり重要である。

⑨法令等の遵守

- ・引き続き、法令個人情報の取り扱い、法令順守の徹底につとめてもらいたい。

⑩社会貢献・地域振興

- ・地域の中学校で実施している福祉教育に貢献していることは大変素晴らしい。今後も継続しておこなってほしい。
- ・ボランティアの魅力を伝える方法を検討し、実施してほしい。

⑪国際交流

- ・様々なサポート体制の構築も必要だが、入国管理局との連携も必要ではないかと思われる。